



## 《女川原子力発電所「構内特別安全大会」を開催しました》～平成30年度の作業安全を誓いました～

5月22日(火)、女川原子力発電所において、「平成30年度構内特別安全大会」を開催し、女川原子力発電所員および構内協力企業社員約1,900名が出席しました。大会では、中央労働災害防止協会より講師をお招きし、指差呼称※の重要性とその効果などについてお話しいただくとともに、現場作業における指差呼称の実践方法について、デモンストレーションを行いました。また、「作業安全」「放射線作業安全」「交通安全」の3つの部門に分けて募集を行った安全標語について、各部門の入賞作品の表彰を行いました。

最後に、職場の代表者が作業安全に関する決意表明を行うとともに、参加者全員で女川2号機の再稼働に向け、安全標語を唱和し、今年度の作業安全を誓いました。これからも、発電所員および構内協力企業社員が一丸となって安全第一で取り組んでまいります。

※指差呼称とは…対象物に指を差し、確認すべき内容を「～よし!」と唱え、間違いがないことや危険が解消されたことを、声を出し指を差して確認する確認行動



構内特別安全大会に約1,900名が出席



指差呼称実践方法のデモンストレーション



安全標語入賞作品の表彰



全員で安全標語を唱和

### 優秀賞(作業安全)

危険作業 するな・させるな・見逃すな  
予知と確認徹底し 声かけ合って安全作業 ヨシ

### 優秀賞(放射線作業安全)

作業環境は日々変化 リスク想定忘れず  
プロ意識と基本動作で 今日もみんなで被ばく低減 ヨシ

### 優秀賞(交通安全)

譲り合い 優しい気持ちが 事故減らす  
今日も 笑顔で「お先にどうぞ」 ヨシ

## 《2018ローズガーデンフェアを開催中》

7月1日(日)まで、女川原子力PRセンターにおいて、「2018ローズガーデンフェア」を開催しています。センター内の「スイートガーデン」には、県内でも有数の約70種類ものバラが植えられており、「しあわせのバラのトンネル」など綺麗な花を咲かせています。

期間中は、バラを背景に撮影した記念写真のプレゼントなどを行っています。ぜひ、皆さまお誘い合わせのうえ、お越しください。

フェア期間中に開催している「バラの香りがするハーバリウム教室」をはじめとした各教室については、定員を超えるお客さまにお申し込みをいただき、大盛況です。今年はバラの開花が例年よりも早かったため、見頃はもうすぐ終わってしまうかもしれません。お早めにお越しください。



女川原子力PRセンター  
アテンダント



(2018年6月1日撮影)



1/2原子炉模型 (1号機)



キッズコーナー

PRセンター館内には、ご家族でエネルギーについて楽しく学べるコーナーのほか、ボールプールやシーソーなどでお子さまが遊べるキッズコーナーもあります。また、フリーWi-Fiもご利用いただけるようになりました。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。



女川原子力PRセンター  
アテンダント

### 女川原子力PRセンター 入場無料

住 所 牡鹿郡女川町塚浜字前田123  
TEL 0225-53-3410  
FAX 0225-53-3286  
開館時間 9:30~16:30  
休館日 毎月第3月曜日(祝日の場合、翌日)・年末年始  
駐車場 25台分(大型バス駐車スペースあり)

※館内には飲食施設は  
ございません。



## 《ボランティア清掃を行いました》～浜辺がきれいになりました～

5月29日(火)、女川町小屋取地区および塚浜地区の海岸清掃に、当社社員・構内協力企業社員23名がボランティアで参加しました。

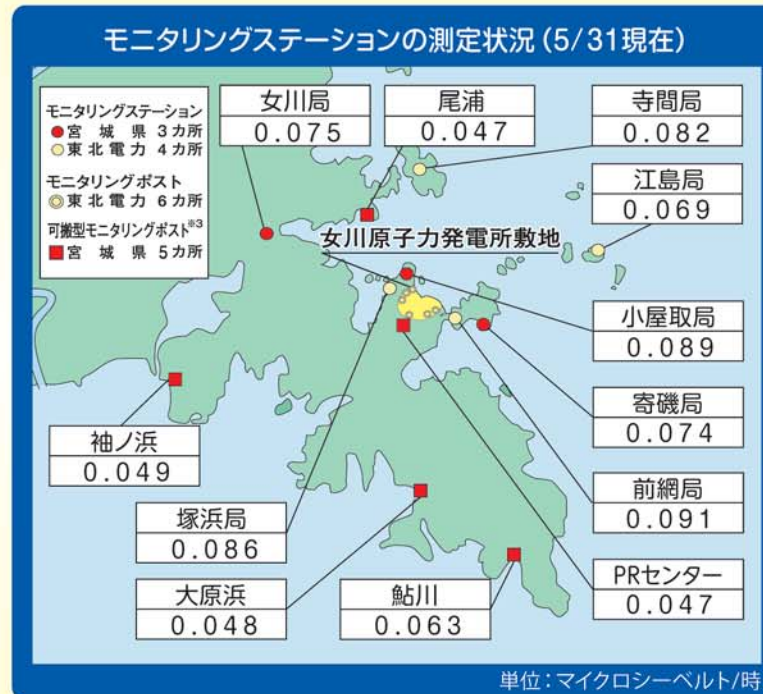
当日は、地域の方々と一緒に、額に汗を浮かべながら浜辺に打ちあげられた流木やごみなどを懸命に回収しました。



## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト<sup>※1</sup>やモニタリングステーション<sup>※2</sup>で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.051マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考) モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	※5 2011年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	※5 2011年3月13日	1.8~21 <sup>※4</sup>
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	※6 2012年4月1日	0.063~0.098
	※7 2013年4月1日	0.055~0.076
	※8 2014年4月1日	0.046~0.065
	※9 2015年4月1日	0.043~0.077
	※10 2016年4月1日	0.041~0.061
	※11 2017年4月1日	0.038~0.059
	※12 2018年4月1日	0.037~0.048
	※12 2018年5月1日	0.037~0.048
	※12 2018年5月31日	0.036~0.051

単位: マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(2011年(平成23年)3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

※5 平成23年 ※6 平成24年 ※7 平成25年 ※8 平成26年 ※9 平成27年 ※10 平成28年 ※11 平成29年 ※12 平成30年

## 新規制基準適合性審査状況のお知らせ(5月末現在、審査会合119回開催)

### 《防潮堤を越える津波への対策》(2018年5月8日)

当社では、女川原子力発電所の敷地前面の最大津波高さを海拔23.1mと評価し、原子力規制委員会から「おおむね妥当な検討がなされている」との評価を受けています。

こうした評価結果に対して十分な余裕を見込み、現在、海拔約29mの防潮堤の建設を進めていますが、今回の審査会合では、万一、この防潮堤を乗り越える高さの津波が発生した場合でも、原子力発電所の安全性を確保するための対策について審議されました。

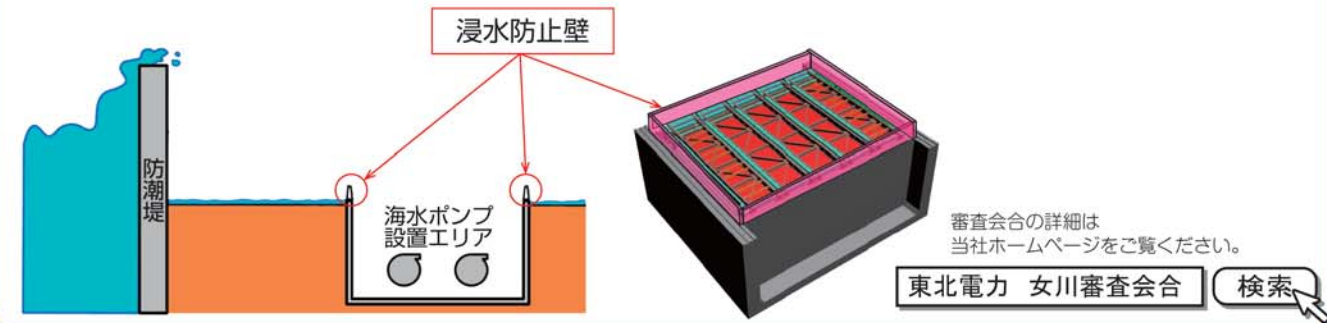
具体的に当社では、津波が敷地内に浸水することによって、原子炉を冷やすために必要な電源が失われたり、原子炉が冷やせなくなって原子炉内の燃料が壊れることを防ぐため、非常用ディーゼル発電機の冷却や原子炉内の熱を取り除くために必要となる「海水ポンプ」を設置しているエリアの周囲に浸水防止壁(下図参照)を設置するなどの対策を行うこととしています。

当社では、防潮堤を乗り越える高さの津波が発生する確率を数百万年に一度と評価していますが、こうした浸水防止壁などの対策により、さらに高い海拔約33mの津波(発生確率は一千万年に一度程度)が襲来したとしても、原子炉を冷やすために必要な電源やポンプなどを守ります。

こうした対策や評価について審議され、原子力規制委員会からは特段の指摘はありませんでした。

当社は、審査の過程で得られた知見・評価などを適宜設計や工事に反映しながら、引き続き、発電所の安全性向上に努めてまいります。

### 《防潮堤を越える津波への対策例》 ■海水ポンプ設置エリアへの浸水防止壁の設置



### ? どうして海水ポンプを守らなければならないの?

- A. 原子炉などを間接的に冷やし続けるために必要な海水を、海水ポンプで汲み上げるためです。
- ▶原子力発電所では、原子炉内のウラン燃料の核分裂反応によって熱を発生し、水を高温・高圧の蒸気にします。その蒸気力でタービンを回転させ、電気をつくっています。
  - ▶原子力発電所を安全に停止させるためには、まずは制御棒を挿入し燃料の核分裂反応を停止させますが、核分裂反応が停止した後でも、燃料の中に蓄積した核分裂生成物から熱が発生するため、原子炉を水で冷やし続ける必要があります。
  - ▶原子炉を冷やすためには、原子炉内を循環する水を海水で間接的に冷やし、その熱を海に逃がすことが必要です。このとき、海水を汲み上げる重要な役割を担うのが海水ポンプです。

### ? 海水ポンプが使えなくなったらどうするの?

- A. 海水ポンプなどが使えなくなった場合に備えた対策もあります。
- ▶発電所にもともと設置している海水ポンプが使えなくなった場合でも、代わりに海水を汲み上げることができる大容量送水ポンプ車を高台に複数台配備しています。
  - ▶女川原子力発電所では、このほかにも、原子炉を冷やすために必要なポンプや電源の確保など、さまざまな安全性向上への取り組みを行っています。

詳しくはホームページをご覧ください。